

事例 14 特別支援学校のOJT実践事例

「自立活動って難しい…」を解決するための事例検討会を開催する
【自立活動系の教員として】

特別支援学校では、個々の児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促すため、「自立活動」の指導を行っている。しかし、障害の状態等により児童生徒の実態は多様であるため、担任は、実態把握を丁寧に行い、一人一人の実態に応じた適切な指導目標や指導内容を設定することが求められている。まさに、一人一人に合わせたオーダーメイドの授業となるため、自立活動の指導に難しさを感じている教員もいる。

そこで、本校では、校内に組織した自立活動係を中心に、自立活動の指導について事例検討会を開催したり、その内容を共有する工夫をしたりすることで、専門性を高める取組を行った。

〈取組の内容〉

○自立活動の事例検討会の開催

校務分掌に自立活動係を設け、指導力向上のための事例検討会を年間数回行っている。同じ学級や学習グループに所属する教員や教科担当の教員など、子どもに関係の深いメンバーでそれぞれの事例について検討した。

検討会では、実際の指導場面の子どもの姿をビデオで見ながら、指導内容や手立てについて全員で考える時間を大切にしている。担任一人の見方ではなく、複数の教員の目で子どもの実態や困難の背景となっている要因などを整理することができるからである。特に、経験の浅い教員にとっては、事例を通して子どもの理解を深めたり、自立活動の指導の進め方について学んだりするよい機会となった。

○校務LANを使った事例検討会の内容の共有

事例検討会の内容は、紙ベースの回覧資料だけでなく、校務LANで全教員に伝えられ、参加できなかった教員にも回覧された。これにより、事例となった子どもへのかかわりを他の教員も共通理解することができた。

【経験の浅い教員の声】

- ・指導をするときの理論的な裏付けを確認でき、自信をもって生徒と向き合えるようになりました。
- ・身体やコミュニケーションの発達について先輩教員と意見交換ができ、よい学びの機会となりました。

【先輩教員の声】

自立活動の指導を複数の教員で検討することで、様々な視点で子どもを捉えることができ、私自身の指導を見つめ直す機会にもなりました。

これが成功の鍵！

①校務分掌などの校内組織を活用する

自立活動係が主導となって事例検討会を行うことで、日常の指導で悩む教員の学びの場をつくるだけでなく、ベテラン教員も自分の指導を見つめ直すきっかけになりました。

④伝える工夫をする

校務LANを活用することで、一つの事例が多くの教員の参考となり、それぞれの指導に生かすことができました。



事例検討会の様子

〈取組の成果〉

- ・複数の教員で話し合うことで、指導の根拠を明確にし、適切な指導目標や指導内容を設定することができた。経験の浅い教員は、自立活動の指導に対する専門性を高める機会になった。
- ・事例検討会を通して、いろいろな実態の子どもへの理解が深まり、参加した教員の指導力が向上した。その結果、事例に挙がらない子どもへの指導にもよい効果が現れた。
- ・校務LANを活用したことで、事例検討会に参加できなかった教員にとっても、自立活動の指導に対する新たな気づきを得られる機会となった。